

4 月 17 日に、本校 3 年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・数学・理科の 3 教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学・理科）

国語（A・B）、数学（A・B）、理科ともに全国平均を上回る結果となりました。学習確認プログラムでもそうですが、生徒が問題に前向きに向き合い、最後まであきらめないで取り組もうとする姿勢が育まれています。

国語科より

国語 A では、全ての区分で 3～5 ポイント（全体 4 ポイント）、国語 B でも同じく 4～9 ポイント（全体 6 ポイント）全国平均より高く、基本的学力が身につけていることがわかります。項目ごとに見た場合、「文章の展開に即した情報の整理・文章の構成」の問題の無答率がやや高いことと、「語を文脈の中で適切に使う」問題での正答率に課題があります。一方、「話し合いの話題の方向を捉え、的確に話す」問題ではポイントが高く、1 年時から、「学びあい」の取り組みを進めてきたことの成果が出てきていると考えられます。

数学科より

数学 A では、すべての領域で全国平均を大きく上回っています（全体 10 ポイント）。数学 B でも全国平均を上回っています（全体 8 ポイント）。値を求める、計算する問題や、図形における数学的な技能・知識・理解の問題は高い正答率となっている一方で、「目的に応じて式を変形する問題」の無回答率は高く、また数学的な意味を問う問題に対して課題がみられます。授業の中で思考・表現する時間を大切にして、知識を関連付けて思考したり、情報を分類整理して的確に処理する学習活動に取り組んでいきたいです。

理科より

理科では、ほぼ全国平均の正答率となっています。「科学的な思考・表現」に関わる問題では全国平均を大きく上回っている一方で、「自然事象についての知識・理解」に関わる問題にはやや課題があります。領域別に見ると、化学的領域と生物的領域に少し課題が残ります。具体的には、水溶液の濃度を表す技能や、オームの法則を使って抵抗の値を求める知識を身につけることなど、計算を必要とする問題ではやや正答率が低い結果となっています。既習事項の復習を丁寧に取り組み、練習問題をしっかりと実施していきたいです。

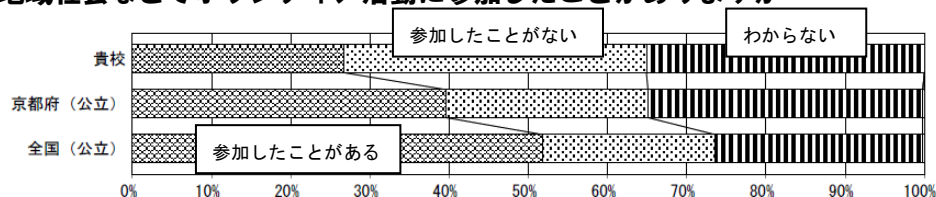
生徒質問紙調査から ①

「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」などの生活習慣に関する質問には 90%以上の生徒が肯定的な回答をしています。一方で「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問には 80%近くの生徒が肯定的な回答をしている一方で「まったくしていない」と答えた生徒が 9.2%おり、全国平均（6.5%）を上回っています。このことから、本校生徒のなかに睡眠時間が少なくなっている生徒がいることがうかがえます。



生徒質問紙調査から ②

Q 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか



本校の生徒は「地域・社会への関心等」に関する質問に関して、肯定的な回答をする生徒が、全国平均を下回る傾向にあります。他にも「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」や「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」などの問いでは肯定的な回答がやや低めです。「部活動ガイドライン」が実施され、子どもたちは家庭や地域で過ごす時間が増えています。子どもたちが地域社会に目を向け、活動できる場づくりが求められています。

全体を通した本校の成果と課題

本校では「人・もの・時を大切に」という学校教育目標のもと、豊かな心を持ち、たくましく生きる力を備えた、自律的に生きる生徒の育成をめざしています。学力向上の取組に関しては、校下の小学校と全国調査やジョイントプログラム等の学力情報を共有して、日々の指導方法の改善や、個に応じた指導に努めてきました。

生徒たちも落ち着いた学習環境の中で、自らのテストの結果等の成績を振り返り、弱点を繰り返し学習したり、自らの進路の実現に向けて頑張ってきました。今回の調査からは、生徒たちは着実に学力を伸ばしていることが確認できました。また、基本的な生活習慣が身につく、将来の夢や目標を持って日々生活していることも明らかになりました。

しかし、生徒質問紙調査②で示したように、本校生徒は地域や社会への関心等がやや低いという実態も明らかになりました。文部科学省の報告書にも「地域や社会に関心の高い生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られる」との記述もあります。子どもたちがどのように地域と関わり、地域の一員として社会生活を営むかについては、大人と子どもが共に考えなければならない課題であることは言うまでもありません。子どもたちがより広い視野に立ち、社会を見つめ、活躍できる方策を今後は意識して取り組んでいきたいものです。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、また順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果を見ると、子どもたちの学力は着実に伸びてきており、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。今後も引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。